

# 湖北圏域 水害・土砂災害に強い地域づくり協議会 第13回協議会 報告

日時：令和2年12月16日（水）10：00～12：00

場所：湖北合同庁舎 1階 第一会議室

本協議会は、社会全体で洪水氾濫に備える「水防災意識社会」を再構築するため、湖北圏域の2市（長浜市・米原市）と国・県が連携して、専門的な学識者の助言を受けながら、湖北圏域における姉川、高時川等の洪水氾濫ならびに土砂災害による被害の軽減に資する取組を総合的かつ一体的に推進することを目的としています。

## 1. 開 会

知事代理の流域政策局長が、「閣議決定された、防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策に続く2021年度からの5か年加速化対策に基づき、治水対策にしっかり取り組んで参りたい。流域治水の取り組みが全国各地で始まっており、湖北圏域においても複合的な対策強化のため関係機関の皆様へは取組の継続をお願いしたい。本日は行政組織に加えまして、学識者にも出席いただいております。水害・土砂災害について共に考え、今後の取組に繋げることで、湖北圏域の防災力がさらに向上するものと考えております。」と挨拶をされました。



## 2. 主な議事

### (1) 2020年度（9月末時点）の取組報告

2020年度（9月末時点）に実施した以下の項目について、各担当機関より報告がありました。

1. 要配慮者利用施設における避難計画の作成および避難訓練の実施
2. 水害・土砂災害リスクの高い地区における取組の推進
3. 防災施設の機能に関する情報提供の充実
4. 土砂災害防止法に基づく抽出・基礎調査
5. 土砂災害リスクの現地表示
6. 水害・土砂災害ハザードマップの改良、周知、活用
7. 緊急点検を踏まえた河川整備、土砂災害防止施設整備の実施
8. その他、各機関の取り組み内容

### (2) 長浜市木之本町石道地区 水害・土砂災害に強い地域づくり計画について

滋賀県流域政策局より、「長浜市木之本町石道地区 水害・土砂災害に強い地域づくり計画」について説明があり、令和2年度末の浸水警戒区域の指定を含めた取組を継続して実施することを確認しました。

### (3) 長浜市余呉町菅並地区 水害・土砂災害に強い地域づくり計画について

滋賀県流域政策局より、「長浜市余呉町菅並地区 水害・土砂災害に強い地域づくり計画」について説明があり、令和2年度末の浸水警戒区域の指定を含めた取組を継続して実施することを確認

認しました。

#### (4) 湖北圏域水害・土砂災害に強い地域づくり協議会の取組全体に関する意見

米原市および長浜市から、湖北圏域水害・土砂災害に強い地域づくり協議会の取組全体に関して意見が挙げられました。

#### 2020年度（9月末時点）の取組報告に関する意見・質疑応答

湖北圏域の取組報告に関して、多々納教授（京都大学防災研究所、アドバイザー）、畑山教授（京都大学防災研究所、アドバイザー）、長浜土木事務所長、彦根地方気象台長から、意見や質問が述べられました。

（以下、〈質問者〉からの意見・質問、〈回答者〉の返答を記します。）

～水害・土砂災害リスクの高い地区における取組の推進に関する質疑応答・意見～

〈畑山教授〉 各地区の取組状況について、多くの地区はそなえる対策を順番に進めているが、上丹生地区と虎姫地区はあまり進んでいない。両地区はどういう状況であるか。

（事務局） 上丹生地区は今年度図上訓練、まちあるき、タイムラインの作成を予定していたが、コロナ禍の影響で自治会活動がほとんどなく進捗が遅れている。虎姫地区は出前講座を実施済みで、今年度簡易量水標を1地区で設置予定である。

〈畑山教授〉 承知した。そなえる対策について、一つずつ進めていくとよいと思う。

〈長浜土木事務所長〉 虎姫地区の取組が一括りになっているが、実際の自治会数およびそれぞれの状況はどうであるか。

（事務局） 浸水深3m以上のエリアには11の自治会があり、虎姫地域づくり協議会と協力し水害リスクを認識いただく取り組みを実施しているが、組織が脆弱で不参加となっている自治会もある。今後も虎姫地域づくり協議会を窓口として取り組みを進めていく所存である。

〈畑山教授〉 虎姫地区は、姉川、高時川の洪水影響の程度により自治会を幾つかグループに割ったほうがよいと考える。自治会が脆弱で、自治会ごとの取り組みが難しいのであれば、少し塊をつくって対応するのがよいと考えるが、そのような動きはあるか。

（事務局） 新しい地域では自治会長がおられない地域もあるため、まとめてやるのか個別にやっていくのか、虎姫地域づくり協議会と調整して取り組みたい。地区全体で浸水深が大きく、また広範囲に及ぶため、避難計画が非常に重要となり、虎姫全体の考え方も整理していきたい。

〈長浜市〉 虎姫地区は大きい一級河川が流れ、200年に一度の大洪水で浸水3m以上が生じる可能性がある地域であり、地域の皆さんも不安を抱いている。行政の対応に関して心配な市民がおられるため、市民への丁寧な説明と真摯な対応をお願いしたい。

（流域政策局長） 虎姫地区は11の自治会が集まり防災対策としてまちづくり的な要素で対応を

考えていく必要がある。まずは全体から検討に入り、その後避難の仕方についてグループ分けができる可能性もある。そういった形を前提にした取り組みを考えており、真摯に対応していく。

＜畑山教授＞ 積極的に取り組まれている自治会は前に進めるということをお願いしたい。もともと住まれている地区は積極的に取り組まれているところもある。足並みをそろえるために特定の自治会を待たせることはせず、できるだけ前へ進めるということをお願いしたい。

～取り組み状況の共有内容に関する質疑応答・意見～

＜多々納教授＞ 取組内容について、実施内容のバック資料があればよりよいと思う。

（事務局） 取組方針に基づく取組の進捗は各機関に対し都度確認しているが、今回は会議時間の関係上、各機関から 1 例特色的な取組を挙げていただいた。

～長浜市・米原市の取り組み状況に関する質疑応答・意見～

＜多々納教授＞ 長浜市から指定避難所の検証と指定見直し、米原市から避難所の感染症対策の報告があったが、米原市と長浜市で同じような取り組みがあれば報告いただきたい。

（長浜市） 避難所を開設する可能性が高くなる 6 月から 10 月の出水期に備え、感染症対策としてマスクや手指消毒液を購入した。また、感染症対策を講じた避難所運営について、びわ中学校で避難所を担当する職員むけに訓練を実施した。

（米原市） 分散避難については、住民の理解が進んだと思う。また、市単独で避難所の全ての物資を揃えることが難しい中で、マスクや消毒液を、民間の力を得ながら整えることができた。一例として日産自動車との電気自動車を活用した災害協定の事例を挙げた。段ボールベッドの備蓄は市では限界があり、滋賀県で備蓄の増強をしていただいたが、さらに強化していただき今後も合理的な運用をお願いしたい。

＜多々納教授＞ 避難所は、最低限の環境を整えたらいいというわけにはいかない。それぞれの方のニーズに対応しなければならず、コロナ後も同様にしなければならない。よりスムーズに対応するための工夫を、情報共有し進めていただければと思う。

～土砂災害警戒情報を補足する情報の提供に関する質疑応答・意見～

＜彦根地方気象台長＞ メッシュ情報において、紫色の範囲に対して土砂災害警戒情報を発表するというようにしており、その中で土砂災害警戒区域に限定して避難勧告を発令すると「避難勧告等に関するガイドライン」で定められている。そのような面的な広がりをもって危険を呼びかけるべき箇所に対し、メッシュ区域のポイントに限定して警戒を呼びかけることは、担当者に誤解される心配がないか。また、資料 1-2 の 4 ページに示されたサンプル図において警戒レベル 4 相当のメッシュ情報が出ている中で、赤色の警戒レベル 3 相当の区域を赤メッシュで強調されている意図がわからない。今まさに勧告を出すときには、紫の箇所が重要であり、そういった見せ方が大事と考えている。

(砂防課) スネーク最大値を抽出して強調するが、メッシュごとに基準が異なる中で精度よく危険な箇所を抽出するのは難しく、抽出方法は砂防課内で検討している。最も危険な場所が表示されないことがないよう、どのような表示や方式で検討していくのか、気象台とも意見を交わしながら決定していきたい。

<彦根地方気象台長>砂防課からの相談等は一緒に考えていきたい。よろしくお願いします。

### **長浜市木之本町石道地区水害・土砂災害に強い地域づくり計画に関する意見・質疑応答**

長浜市木之本町石道地区水害・土砂災害に強い地域づくり計画に関して、畑山教授（京都大学防災研究所、アドバイザー）、長浜土木事務所長から、意見や質問が述べられました。

(以下、<質問者>からの意見・質問、(回答者)の返答を記します。)

#### ～避難カードに関する質疑応答・意見～

<畑山教授> 「避難カードとこれを基にした本計画は、毎年開催する防災訓練にあわせて更新します。」と計画にあるが、防災訓練について計画書に記載はないのか。

(事務所) 平時は長浜市総合防災訓練に合わせ各地区で防災訓練を行っているが、今年度は避難訓練をほとんどの地区でできていない。2017年に避難カードを配付してからは一度も更新していないため、次年度以降に避難カードの更新を提案したい。

<畑山教授> 情報の更新は重要であるため、長浜市総合防災訓練にあわせる形で更新を毎年やっていただければと思う。

#### ～地域づくり計画の住民への周知方法に関する質疑応答・意見～

<長浜土木事務所長>地域づくり計画の住民への周知方法を教えてほしい。

(事務局) 自治会の役員と相談し、石道・菅並とも、地域づくり計画の原本は役員レベルまでの配付とし、概要版は住民説明会等で全員配付をしている。

<長浜土木事務所長>各地域のリスクを知ってもらうことや逃げるタイミング、水平避難優先ゾーンの記述が一番大事と思うため、各地域の方に簡単でわかりやすく提示する方法が必要と思われる。よろしくお願いします。

### **長浜市余呉町菅並地区水害・土砂災害に強い地域づくり計画に関する意見・質疑応答**

長浜市余呉町菅並地区水害・土砂災害に強い地域づくり計画に関して、多々納教授（京都大学防災研究所、アドバイザー）、畑山教授（京都大学防災研究所、アドバイザー）、琵琶湖河川事務所長から、意見や質問が述べられました。

(以下、<質問者>からの意見・質問、(回答者)の返答を記します。)

#### ～おたすけマップに関する質疑応答～

<畑山教授> おたすけマップは検討中か。

(事務所) 菅並地区は、自治会役員が既に支援を要する方を把握されており、マップ上で要配慮者の家屋を定め、災害時の個別計画もつくられている。マップには記載

していないが、個別計画に基づく支援者も記載したマップを地区役員様へ渡し  
ている。

～水平避難優先ゾーンに関する質疑応答～

<多々納教授>精度の問題かもしれないが、避難場所の菅並集会所は周辺にある水平避難ゾ  
ーンのすぐ外側になっているが、避難所の安全性は大丈夫か。

(事務局) この流体力は木造家屋が流れる可能性があるものとして整理している。菅並会  
館は鉄筋 2 階建てであるため、避難所として適していると考えている。

<多々納教授>川から比較的離れたところに水平避難優先ゾーンが多くみられ、当該ゾーンの  
道路上での流速は大きくなる。そのため避難のタイミングが大事になるが、安  
全側を取り過ぎると避難しにくくなり、危険側を取り過ぎると流体力が大きい  
ところでは怖い。避難タイミングのタイムラインでの反映状況を教えてほしい。

(事務局) タイムラインでは、レベル 2、大雨・洪水注意報が出ている時に菅並集会所を  
開設する。かなり早いと思われるが、自治会役員の意識はかなり高く、大雨・  
洪水注意報が出て、台風が襲来する予報がある場合に開設することになっている。  
る。

～避難カードに関する質疑応答・意見～

<琵琶湖河川事務所長>石道地区で挙げられた避難カードは、菅並地区では実施していないのか。

(事務局) 実施していない。役員との協議で、菅並地区は石道地区よりも規模が小さく、  
また住民情報を完全に把握されているため、避難カードは実施しないと決定し  
た。

<琵琶湖河川事務所長>避難カードは良い取組であると思う。野洲川と瀬田川でも大規模氾濫減  
災協議会を設けており、県で実施している避難カードの取組について紹介して  
いただければありがたい。

～簡易量水標に関する質疑応答～

<琵琶湖河川事務所長>量水標は、カメラで確認できる仕様か。

(事務局) 今現在は菅並地先にはカメラはないが、今年度にカメラを設置予定である。

**湖北圏域水害・土砂災害に強い地域づくり協議会の取組全体に関する意見**

湖北圏域水害・土砂災害に強い地域づくり協議会の取組全体を通して、米原市長、長浜市長、  
長浜土木事務所長、多々納教授（京都大学防災研究所、アドバイザー）から質問や意見が述べら  
れました。

(以下、<質問者>からの意見、(回答者)の返答を記します。)

～強靱化対策工事に関する質疑応答・意見～

<米原市長> 現在、県道山本東線や小泉地域で道路の強靱化対策工事をやっていただい

おり大幅に通行制限区域が狭まるということだが、まだ多くの危険箇所が点在している。連続降雨量が 100 mm を超えると通行制限になり、制限中は自己責任で通っていただいている状況であるが、自己責任での通行は市長の立場として説明できない。滋賀県から、強靱化対策工事の見通しと現状について情報提供いただきたい。

(長浜土木事務所長)

山東本巣線については、1 箇所目は来年の秋に工事が完了する。その後、通行規制の解除にむけて検討会を設け意見収集等を実施し、通行規制が解除にむかう段取りである。

<米原市長> コロナの関係で、地方への移住や就業がよいという動きに時代が変わってきているが、安全性が確保されていなければ移住提案への説得力が欠落してしまう。時間をかけて対策をすればいい時代ではなくなった点をぜひ考慮していただき、速やかに計画の展望をお見せいただけるようお願いしたい。

～ハード事業に関する意見～

<米原市長> 村居田地区では取組をいち早く推進し、地元も様々な活動をしているが、河川整備計画の中では整備実施計画区域の位置づけや緊急浚渫推進工事等の位置づけがない。住民へのソフト対策の提案はあるが、周りのハード事業が見えない。村居田地区は閉鎖的な区域で、内水氾濫が起きる恐れがあるので、排水ポンプ等の対策を御提案いただきたい。

ハード事業の観点から、姉川や地域の内水排水の問題等についてわかりやすく対策の展開や展望をお見せいただけるようお願いしたい。

(長浜土木事務所長) 現状著しい堆積もないと思われるが、出水ごとに川の状況は変わるため地元住民の方から浚渫要望が挙がった場合は、きちんと対応していきたい。

～県道東野虎姫線の道路整備事業に関する意見～

<長浜市長> 長浜市虎姫地区では 2017 年 8 月 8 日に姉川の氾濫が発生した。行政は市民・県民の皆さんの命と財産を守ることが最大の責務であるため、市民の皆さんと一体となり、この協議会を通じて身を引き締めなければならないという思いである。

長浜市の虎姫地区にはおおむね 5,000 人を超える市民が暮らしており、200 年に一度は大雨が降って浸水が 3m となることも承知している。虎姫地区には県道東野虎姫線が東西に走っており、今年 7 月の大雨で JR のアンダーパスが冠水し通行止めになった。地域の皆さんは、大雨の際は東の旧浅井方面に避難する考えだが、県道東野虎姫線を利用しないと浅井地域に避難できない状況である。東野虎姫線への跨線橋やバイパス整備の要望活動を始めているが、災害に強い地域づくりに繋がる事例であるため、ぜひ応えていただきたい。

(長浜土木事務所長) 県の道路整備に関するアクションプログラムは次回 2023 年から開始であり、来年あたりから準備にかかる状況である。これまでは、渋滞の状況や歩行者の歩道整備が地域の重点的な項目として挙がっていたが、防災や減災を視野

に入れて整備していくべきということも考えている。

東野虎姫線は浸水深の大きいところから東へ逃げる唯一の道であるため、鉄道を跨ぐ跨線橋とすることで、一時避難の場所となること、東の地域へ素早く逃げることができるという観点で、山東本巣線も土砂災害の危険性がありトンネル設置することで集落の孤立回避、孤立集落の回避という観点で、2023年のアクションプログラムに載せられるよう頑張っていきたい。

<流域政策局長> 防災・減災の視点からの道路整備について、先生方からアドバイスを頂きたい。

(多々納教授) 道路整備の目的の中で防災・減災に関する項目は通常あるが、それだけを目的にして道路整備ができるかという、難しい議論である。ただ、地域づくり協議会ができるそもそもの頃から道路を二線堤にして使う等の議論があったが、当時は制度が議論内容に追いついていなかった。今は流域治水に関する議論があり、道路の整備メニューに入れられる可能性としては前より高くなっていると思う。

道路ネットワークの維持や安全な避難場所をつくるための道路整備という言い方は難しいかもしれないが、災害時でもネットワークの健全性を維持することは重要なポイントであるため、滋賀県で計画を作られるときに議論していただき、位置づけられたらいいと思う。

以上